宝塚市立幼稚園の適正規模及び適正配置に関する基本方針の説明会について（報告）

～　中山台コミュニティセンター　～

１　日時

　　平成28年(2016年)7月3日(日)午前10時00分～12時20分

２　場所

　　中山台コミュニティセンター

３　参加者数

　　８８人

４　説明員及び記録員

　　宝塚市教育委員会事務局

　　　管理室長　西本　学

　　　学事課長　髙田　輝夫

　　　学校教育室課長（幼児教育兼幼児教育センター設置準備担当）　谷川　妙美

　　　学事課係長　佐藤　政隆（記録員）

学校教育課係長　三ヶ尻　桂子（記録員）

５　議事録

【説明】

第1章として、市立幼稚園の適正規模・適正配置の考え方をまとめている。

まず1点目、適正規模の考え方として、1学級あたりの園児数の考え方をまとめている。園児が集団の中で学び、育つためには、一定の規模、園児数が必要であり、幼稚園教育審議会からの「適正な規模」が目安として位置づけられる「20人程度」とした答申に加えて、庁内の関係職員で構成するプロジェクトのまとめから、適正な人数20人以上が目安として挙げられた。

本市では、1学級あたりの園児数は、宝塚市立幼稚園規則に3歳児が20人以内、4歳児が30人以内、5歳児が35人以内と規定している。

そこで、1学級あたりの望ましい園児数を3歳児では下限値を15人、上限は規則通りの20人、4歳児では下限を20人から上限は規則通りの30人、5歳児では4歳児同様20人以上、35人以下とまとめた。従って、4歳児の1学級あたりの園児数がこの基準を下回る場合は、適正規模化の対象として具体的な計画の策定を進めていこうとする方針である。

1学年あたりの学級数については、幼稚園教育審議会からは、複数学級とすることで教員同士が指導方法について協議ができ、組織的な園務分掌も確保され、教員が互いに切磋琢磨することにより、より質の高い幼児教育の提供が可能となるとしており、プロジェクトにおいても同様の考え方が示された。したがって、幼教審の答申を踏まえて、本市における1学年あたりの望ましい学級数については複数学級、いわゆる2学級以上としている。

次に適正配置、宝塚市内における幼稚園の配置の考え方については、幼稚園教育審議会から、「全ての地域の子どもたちに、等しく、望ましい幼児教育を行う観点からも、一定距離の範囲内に公立幼稚園が配置されていることが望ましい」とした答申に加え、庁内の職員で構成するプロジェクトでも、市立幼稚園の就園希望者の受け入れと、私立幼稚園の立地状況を考慮して、市域の右岸側に2園、左岸側に4園、西谷に1園の計7園とすることが適正であるとしている。

　こうしたことから、適正配置については、幼稚園への就園を希望する幼児が公立幼稚園又は私立幼稚園のいずれかに就園できるよう、公私立幼稚園の配置状況を勘案し、市立幼稚園を12園から7園とする適正配置を進めることとしている。

　第2章では適正規模・適正配置の進め方を定めている。

1つ目に今後の進め方として、既に小規模化が著しい園や待機児童対策のために復園した園については早期に対応することとし、また、適正規模の基準を継続して下回る園については、適正配置の視点を踏まえた適正化を進めようとする。

　2つ目は留意事項として、基本方針を点検し、場合によっては見直しを行うもので、5年後を目途に、今後の園児数の減少状況を見極めながら、本基本方針の点検を行い、必要に応じて、この計画の見直しを行おうとするものです。

　第3章では、今後の幼児教育（就学前教育）の充実についてまとめている。

　適正規模・適正配置による教育環境の整備のほか、既に施設設備が整っている園での3年保育の実施を取り上げている。この他、幼児教育センターを設置して、就学前教育の充実を図ろうとしている。

　第4章では、公共施設マネジメントとの関係をまとめている。これは幼稚園だけでなくすべての教育施設が宝塚市の公共施設として、約40％を占めている。公共施設の効果的かつ効率的な維持修繕の実施による長寿命化や施設保有量の最適化など、保有する公共施設を資産として最適に維持管理し、有効活用を図る取組を教育委員会も含めて全庁的に推進することとしており、幼稚園施設についても、こうした視点を踏まえた適正化を進めていこうとしている。

【質疑】

|  |
| --- |
| 園規模の適正基準は、教育的意義から望ましいと思われる園児数、学級数が一つの判断になることが理解できた。この他、認定こども園が必要だと思う。子ども達が不便なく通えるような位置にある幼稚園。そして、経済的な意味も含めて無理なく通わせることが出来る幼稚園。そして、保護者が頻繁に園に出入りし、一緒に子育てが出来る幼稚園が必要だと思う。この他、まちづくりの観点から、少子高齢化が進む中、安心して子育てが出来る環境が必要。その観点から市立幼稚園の適正配置を考えていただきたい。 |

（回答）

　小中学校とは違い、幼稚園は保護者の送迎を想定していることから、交通用具や交通機関を利用した通園も想定している。

この通園手段を徒歩に限定した場合、既に市立幼稚園は12園のみなので、中学校区と同じくらい広い地域を登園することとなるので無理が生じる。

経済的な問題では、私立幼稚園の就園児の保護者には、保護者の所得に応じて就園奨励費補助金制度により、最高年額308,000円が給付している。

|  |
| --- |
| この中山五月台幼稚園を存続させていくために、この地域の私たちに出来ることがあるとすれば、それはどんなことかを聞きたい。子どもたちの数や園児数が減っていて、財政的な問題からも廃園になることは仕方がないことだとは分かるが、中山五月台幼稚園には「おやま」という他の幼稚園にはない貴重な環境がある。金銭的な問題や距離的な問題として解決できるような話ではなく、この素晴らしい環境を次世代に残したいとの思いが必要である。 |

（回答）

　こうした自然環境の中で、子どもたちは力強く育っていることを実感した。

しかしながら、非常に残念ではあるが、保護者の傾向としては、就労状況の変化から長時間保育を希望されている。保護者の働き方が変わり、長時間保育を希望され、それに対応できない公立幼稚園ではなく、保育所などへの需要が高まって、結果、公立幼稚園には園児が集まらない状況である。その中で「おやま」の教育環境は素晴らしいが、現に園児数が減少している。

この事実は、しっかりと受け止めていかなければならないと思う。その中で、12園の公立幼稚園を見ていると、複数学級の幼稚園は活気がある。隣のクラスの子どもたちと競い合ったり、刺激し合ったり、これは子ども同士だけではなく、先生の中でも同じことが言える。１学年に1クラスでは担任も苦労するところがある。

こうしたことを考えると、本当に適切な教育環境とは、幼児期にどんな環境が望ましいのかを考えると、一定の規模が必要であると考えている。

|  |
| --- |
| 教育委員会の話を聞いていると園児数である。何か、違うような気がする。距離や量ではなく、質の問題だと思う。そこへ立ち返って考えなければ数に流されてしまう。教育行政は、教育論が必要だと思う。1ページに1学級当たりの園児数が記載されているが、宝塚市立幼稚園規則第2条には、3歳児20人以下、4歳児30人以下、5歳児35人以下と規定されている。下限を設けているものではない。次に、なぜ、4歳児だけを適正規模の対象にしているのか。幼稚園には5歳児も通っている。これは一貫性がないと思う。次に、望ましい学級数を2学級以上とする。なぜ2学級なのか。1学級でも子どもが10人いたら集団を形成する。次に、3歳児については、保育室がないので短学級で良いというのは、これは完全に教育論から外れている。3点目、適正配置の考え方では、右岸に2園とあるが、現在の学級数と子ども数から言えば、右岸には3園を減らすことになる。残るのは1園だけになる。左岸についても、4園残すと記載されているが、教育委員会の基準では3園しか残らない。基本的な考え方がここで破たんしている。パブリック・コメントは、市民の皆さんから広く意見をお聞きし、一緒に考え、決めていこうとする制度です。と書いている。実施計画は一方的に決めるものではないということを確認しておきたい。 |

（回答）

　パブリック・コメントについては、幅広く市民の皆さまから意見を聞いて、反映できるものは反映していくことが基本的なルールだと思う。意見を踏まえて計画を策定したい。

1点目、確かに規則では下限値を設けていないが、少数を想定していたものではない。規則で決めているのは上限だけで、31人の時は、15人と16人になる。規則の中の但し書きについては、規則で定めた人数以上に受け入れする場合を想定している。

次に、4歳児だけを適正化の対象としたのか。については、学級数が4歳児の段階で決定し、１学級30人定員となった場合、進級する翌年度の5歳児は１学級35人となる。また、4歳児の段階で園児数が少なかった学年は、進級した翌年度の5歳児も当然に少ないことから、4歳児の段階で、その後の園児数の動向は把握できる。したがって、4歳児の園児数に着目している。

2学級以上が望ましいというについては、4歳児で出会った友達、そして5歳児になって新たに友達をつくることができ、たくさんの友達を作って小学校に進学させたい。また、クラス替えによって、新たな人間関係を構築することになり、子どもたちの対応能力を醸成することを目的としている。

一方、3歳児を単学級とした理由は、3歳児の活動範囲は、小さな集団であり、大きな関わりまで発展しない。単学級だからといって、教育効果が下がるものではないと捉えている。

右岸側2園、左岸側４園を適正配置とした理由については、適正規模と適正配置をすり合わせた結果である。

適正規模の維持は重要ではあるが、一方では、一定の距離の中に公立幼稚園が必要だと考えており、適正配置の視点から、適正規模の基準を下回る場合でも、一部の園は残していかなければならないと考えている。

就学前人口は、右岸側１に対して左岸側は２である。人口バランスも含めて適正配置を考えている。

|  |
| --- |
| 「子どもは互いに切磋琢磨することにより、より質の高い幼児教育が可能」とあって、これだけを読むと、子どもの数は多くなければならないと思ってしまうが、逆に少ないから、より、子ども達に関われることもある。昔、中山桜台幼稚園を廃園した当時、子どもが減少したことを理由としていたが、中山五月台幼稚園では抽選となって、結局、2年保育には入れず、1年保育だけとなった。本当に子どもの数は減るのか？通える公立幼稚園は長尾幼稚園になると思うが、長尾幼稚園であれば、中山台地区で公立幼稚園を希望している幼児が全員入園できるのか。新しく園舎を建設したが、あの園舎で3年保育を実施していけるのか。最後に、公立幼稚園を残せない理由があるかもしれない。子どもが少なくなっているので、小学校もそのうち、1校になるのではないかと思う。その時に、小学校がないから幼稚園が残せないような理由があるのであれば、桜台幼稚園は園舎も古くて、地域でも使っていない。それを復活させろとは言わないが、そこは枠を外して、空いているところにプレハブを建てることや、小学校の端に何か建てられないか。空き教室を使って、公立幼稚園に行きたいと思っている人の気持ちを大事にできる場所を残せないのかを検討していただきたい。（意見のみ） |

|  |
| --- |
| 人口減少や今後の人口推移を見た上で出されている結果だと思うが、世代交代もあり、私の周りでも子どもさん連れの家庭が増えている。今後の子どもが増える見込みも出されての結果なのか。 |

（回答）

　中山台地区の就学前人口の推移は、住民基本台帳上の人口に新たな住宅開発がある場合は、実績や価格帯等も勘案して発生率を算出し、推計を取っている。中山台地区には新たな住宅開発は見込めないため、子どもの数が増える要素は少ないと考えている。

|  |
| --- |
| 数字ばかりで中身が見えない。人数が多いから良い教育ができるとは思えない。人数が少なくても協調性は学べると思うし、この自然を生かし、地域の特色を生かした教育をされており、大変満足をしている。人数が少ないので廃園ありきで進められていると思うのだが、どうすれば存続できるのかを教えてもらいたい。 |

（回答）

各市立幼稚園では様々な取り組みを進めてきたが、子どもの数が減っていることに加えて、長時間保育への需要が高まっていることから園児数が減少している。

市立幼稚園でも預かり保育を実施するなど、通常の保育時間に加えて、預かり時間の延長も行ったが、園児数の減少に歯止めがかからなかった。

こうした状況の中、質の高い幼児教育を実践していくためには、まずは一定規模による環境整備が必要であると考えている。

地域の特色を生かした教育を推進することは重要な課題ではあるが、まずは、教育の本質である集団における教育環境を確保することが目的となる。

|  |
| --- |
| 私は体育が専門で、この30年間、公立の幼稚園の未就園児から在園児の親子体操などに廻らせていただいたり、先生方の研修会も参加させていただいて、子どもの運動遊びについてのお話もさせていただいている。本当に公立幼稚園の先生方は一生懸命子どものために尽力されている。教育的な立場から、公立幼稚園の先生方の一生懸命な思い、教育熱心な思いもやっぱりくみ取りながら、数だけでの廃園ではなく、子どもたちの教育を考えた公立幼稚園は、ぜひ残していただきたいと思う。（意見のみ） |

|  |
| --- |
| ここに集まってくださった皆様の顔ぶれをご覧いただいても、決して現役の子育て真っ最中の方だけではない。本当にこの地域の山の教育を地域全体で考えていこうという気持ちの高いところである。教育というのは、幼稚園だけ切り離して考えられるものではなく、特にこの地域は幼小中の連携というところで教育をみていこうという、そういう機運がしっかり根付いている。決して数の問題ではない。教育の機会を子どもたちが等しく、負担なく、どう受けられるか、そういう視点に立って、西谷と同じようにこの地域を捉えていただくわけにはいきませんか、というご意見があったが、この地域特有の幼小中一貫の教育ということを、是非この地域を挙げて考えていきたいと私は思っている。（意見のみ） |

|  |
| --- |
| 今回、山の上の幼稚園が廃園になるのではないかと心配している。中山台は、現在高齢化が進んでおり、若い方は少ないが、今の段階で廃園にしてしまって良いのかと思う。そうするとこの街の魅力は何もなくなるんじゃないかと思う。現に『１年半前に引っ越してきました、当然ながら五月台幼稚園に行って、お山で遊んで、そのために引っ越してきたんです』それがなくなって、今ここには2人小さいお子さんがいらっしゃるのだが、『私たちは一体どうしたら良いのか、選択肢が何もないのではないか。もう1人子どもを産んで、こんな良い所で育ててみたい』というメールが入っている。パブリック・コメントに対してどのように答えたら、この街に幼稚園は残るんだろう、という悲痛な叫びのメールだった。私たちは、この山の上に幼稚園がなくなるということが想像できない。将来的にこの街に幼稚園を残さないと高齢化がますます進んでいくというのは、若い方々からも、この街には残さないといけないと思う。他の市の例では、公立幼稚園で3年保育を実施しているから若い方が増えている。廃園にしていくのではなく、空き教室もあるので、それを3年保育に変えていくなど、将来的にはこども園として、保育所と併用したものも考えてほしい。（意見のみ） |

|  |
| --- |
| 来年、中山五月台幼稚園に入園する園児の保護者だが、私の個人的な意見を言わせていただく。適正配置の考え方の中で、車で10分という一つの目安があるとの説明があったが、車で送迎した場合、子どもの歩く機会が減少する。この徒歩での通園は大切だと思う。中山五月台幼稚園の良さの一つに、グループ登園がある。集合場所までお母さんが車で送って、そこから幼稚園まで徒歩で通園している。坂が激しいので、３歳、４歳の子が歩くには、一苦労。中山台は坂道ばかりなので、そこを歩いて鍛える良い機会がこの幼稚園がある。また、お山の存在も大きい。私自身、1回中山台から出たのだが、父が亡くなったこともあって、2年くらい前に戻ってきた。他にもたくさんの人が戻ってきている。自然がいっぱいあって、だから敢えて駅の近くとか便利な所に住んでいても帰ってくる。そういう子育て世代が住んでいる地域である。幼稚園でお山とか自然に触れさせたいという気持ちをもって帰ってきた子育て世代の機会を失ってしまうのは、宝塚市の住民を市が応援してほしい。数字とかデータとかが必要だが、それ以外にあるものも汲み取って、今後指針とか計画を進めていただきたいと思う。（意見のみ） |

|  |
| --- |
| 市の説明では、少子化が進み、だから廃園に追い込まなければならないというようなお考えを述べられたようなのだが、では、世代交代というものは必ず出てくる。このまま少子化がずっと、何十年も、50年も100年も続くわけではない。必ずや世代交代というものはある。市のお考えというものは、頭の中での考え、机上での計算、計画。もう少し現実を見ていただきたい。それと同時にしっかりとお願いをしたいのは、勝手にごり押しをして、これをやってしまうことのないように、地域の皆さんの声を十分にお聞きになって、真摯にお考えになって、きちっとしっかりとした合意形成をされたうえで、判断をしていただくというのを、約束していただけるか。お約束していただけるか。 |

（回答）

　しっかりとご意見を伺いながら、検討を進めていきたい。

|  |
| --- |
| はっきり言いなさいよ。きちっと地域の皆さんの話を聞いている訳だろう。合意形成という言葉を知らないのか。ごり押しはしないでほしい。それを約束してくれと言っている訳だから。分かったという答えが返ってくると思ったのだが。 |

（回答）

　これだけたくさんの方がお見えになって、数多くのご意見をしっかり受けとめている。しっかり考えて、今後取り組んでいきたいと考えている。

|  |
| --- |
| お伝えしたいことが４点、お聞きしたいことが２点。1点目は、公立のPRが足りない。私自身、上の子は私立しか考えなかった。公立の情報は全然わからなかった。定員がいっぱいで入れなかったから仕方なく公立に入れた。そうすると、公立はすごく良い所だと分かった。下の子はよく分からなかったから私立に入れていたのだが、公立に転園した。全然ＰＲが足りない。もっとやってほしい。2点目、経済的な問題で、就園奨励費は、生活保護の方は30万が出るが、ここにいらっしゃる多くの方には多分10万くらいしか出ない。雲雀丘学園幼稚園は50万かかる。全然足りない。3点目、私立は園バスがある。長尾も園バスを出したら良いかというとそうではなくて、行事のたびに山本駅前のコープさんからクレームがくる。園には駐車場があないため、保護者は車で行き、コープの駐車場に長時間駐車することになる。でも停めるところはあそこしかないからクレームが来る。毎年毎年クレームが来る。だから長尾にする場合も、そういうことを考えて頂きたい。4点目、省きます。質問については、実施計画の完成時期と、どういうプロセスで、いつ私たちの意見を聞いていただけるのか。それからもう一つの質問が、先ほどから「どうやったら残せるんですか」と聞いているのだが、答えて頂けていないので、それを答えて頂きたい。 |

（回答）

　具体的な計画については、出来る限り早期に策定したいが、皆さま方の意見をしっかり聞きたい。そういう時間もしっかり取りたい。

　園の存続方法については、園児が増えることだと考えている。短期的ではなく、長期的に増加傾向になければならないと思うが、中山台地区には開発要素もないことから、社会的な要因で園児数が増える見込みはない。

|  |
| --- |
| 昨年10月に引っ越してきた。それまで娘は、私立の幼稚園に通っていた。それを年長からこちら、中山五月台幼稚園に転園させていただいた。その中で一番感じていることは、「親の姿を見て子どもは育つ」ということの意味を、すごく学ばせていただいた。そして集団登園に参加させていただいて、その中で私は毎日泣きながら子育てをしているのだが、地域の活動に関わる中、同じ立場のお母さん方に毎日励まされながら、うちの子どもも毎日泣きながら行っているが、一緒に集団登園で他のお母さんに励ましていただき、私が当番の時には、下の未就園児の2人をほかのお母さんに預かっていただきながら、毎日通わせていただいている。皆さんもこういうご協力がないと、私はどう子育てをしていたか分からない。それぐらい素晴らしい園だと思っている。（意見のみ） |

|  |
| --- |
| 統廃合は、本来、財政的な問題があるのではないかと思う。ここに集まった人の総意は、中山五月台幼稚園を残してほしいということ。そこで、3つ端的に時間がないので申し上げる。1つが、市全体で5園を廃園し、後は残った7園と私立幼稚園で受け入れると言うが、収容できるのか。もう1つは、中山五月台幼稚園の廃園後は長尾幼稚園へ登園することになるが、山手台地区も住宅開発が進む中、収容できるのか、希望すれば全部行けるのか。2つ目が車で10分以内というが、中山台、私が住んでいる中山台から長尾幼稚園まで20分かかる。丸橋幼稚園までは30分かかる。10分以上かかる。3つ目が、4ページに出ている、幼児教育センターの設置など、本当に廃園するのであれば、この跡地に幼児教育センターを設置するなどの代案を提示しないと納得できない。その点、3点だけお願いしたい。（意見のみ） |

|  |
| --- |
| 小学校2年生の息子が「必ずここで言ってほしい」ということがある。中山五月台幼稚園を絶対なくさないでほしいと言っていた。卒園した子どもたちも絶対そう思っている。それほど良い幼稚園なので、無くさない方向で考えてほしい。 |

【閉会】